

調査レポート

今月のグラフ(2026年6月)

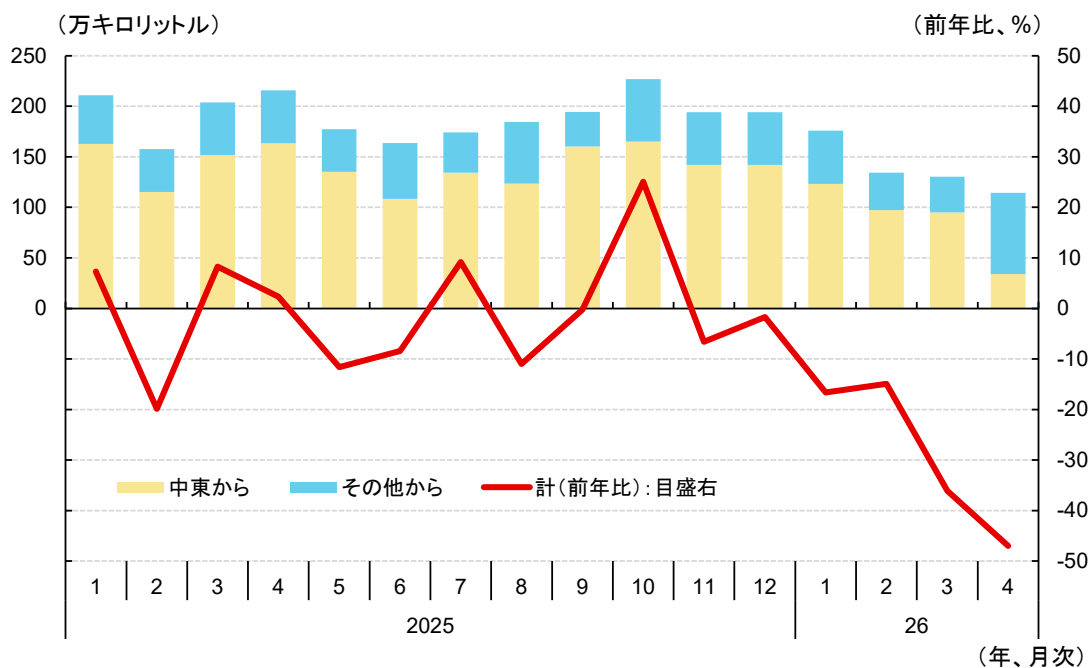
前年から半減した4月のナフサ輸入量

調査部 主任研究員 藤田 隼平

財務省「貿易統計」によると、2026年4月の中東からの輸入額(円建て)は前年比▲56.8%と、ホルムズ海峡の事実上の封鎖が続く中で大幅減となった。こうした状況下で、現在、特に懸念が高まっているのが、化学製品の原料として利用されるナフサの不足である。4月のナフサ輸入量は114.4万キロリットル、前年比▲47.0%と前年同月から半減した(図表)。日本国内で使用されるナフサの約半分は中東からの輸入に依存してきたが、その輸入量は前年比▲79.1%と大きく落ち込んだ。

一方、米国などを中心に中東以外からのナフサ輸入量は前年比+52.4%と大きく増加しており、政府による代替調達先の開拓は着実に進展している。しかし、こうした増加でも中東からの減少分を十分に補うには至っていない。足元では、政府が「目詰まり」と呼ぶ、流通段階での供給抑制的な動きが生じている可能性もあり、一部でナフサ由来製品の需給にひっ迫感が高まっているとの指摘がある。政府には、引き続き代替調達先の確保を図るとともに、企業に対して過度な在庫確保を抑制するなど、冷静な対応を促していくことが求められるだろう。

図表 日本のナフサ輸入量の動向



(注) 石油連盟の定義を踏まえ、HSコード 2710.12-139 および 2710.12-181 をナフサ輸入としている。

(出所) 財務省「貿易統計」により作成。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。